
ハイライト中毒

LIDY

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハイライト中毒

【Nコード】

N7797B

【作者名】

LIDY

【あらすじ】

貴方を恋しがる心はハイライトで誤魔化すの。

貴方はハイライトを吸う

貴方の持つハイライトの黄色い煙が
空気に溶けて青くなっていくのを見ているのが好き

あの特有の苦い貴方のキスが好き

あの匂いを忘れないように
あたしはたまにハイライトを吸う

目が覚めて貴方がいない朝にようやくなれて

貴方の体温がないシングルベッドでようやく一人で寝られるようになった

時折訪れる寂しさに
ついキスをねだりたがる唇にハイライトをくわえる

貴方を恋しがる心をハイライトの煙で満たす

「…会いたい」

呟いた言葉は煙よりはやく部屋に溶けていく。

煙が目染みて痛い。目の奥が痛い
ずっと奥が痛い

携帯を取りかけた手は中途半端に空に浮く

電話なんかしたらまた会いたくなる
メールをしても寂しさがつくる

会いたい

寂しい

切ない

苦しいよ

ねえ、思った以上に貴方が好きみたい

忘れそう、貴方の声を

あたしに伝える貴方の声を

中性的な貴方の手で

あたしはどんな風に触られてた？

ねえ、キスがしたい

貴方に触れたい

抱き締めたい

貴方を思い出す度に

喉の奥に砂糖菓子を詰らせたみたいな痛みを感じる

詰まる気持にまた

目の奥が痛い

ねえハイライト慰めて

唇を塞いで

優しく抱き締めて
匂いで一杯にして

寂しくさせないで

所詮はあなたの代用品

でもあたしは中毒で唇から離せない

黄色の煙が空気に溶ける

そしてあたしは言葉を詰らせる

ハイライトの煙が

あたしを泣かせて

貴方が濃くなっていく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7797b/>

ハイライト中毒

2010年11月20日15時37分発行